

大規模災害に備え太子町と「全日本冠婚葬祭互助会」が協定を結んだ調印式に代表 山下裕史が出席いたしました。

大規模災害に備え太子町 葬祭業界と支援協定

遺体収容資材の提供など

地震など大規模災害で多数の犠牲者が出る事態に備え、太子町は23日、業界団体「全日」

送に必要な資材や人手などを提供する。

同協会は阪神・淡路大震災を教訓に、135の都道府県および市町村と協定を締結。県内では姫路市に次いで同町が2番目となる。

協会には全国の冠婚葬祭互助会220社が加盟。全国を10ブロックに分け、広域災害に対応する体制を敷く。

協定によると、災害発生時の支援として、遺体を納めるひつぎや納体袋など葬祭用品の提供、遺体の収容や搬送の手伝い、安置場所の確保などを盛り込む。経費は自治体負担する。

都市部で集中的に犠牲者が発生した阪神・淡路では、ひつぎが不足し、遺体の搬送などが困難を極めた。

協会はこうした経験に基づき、災害用のひつぎを備蓄するほか、指揮命令系統を整備。東日本大震災ではひつぎ1万7千本、納体袋1万枚を提供した。

この日、町役場であった協定書の調印式で、同協会の山下裕史副会長は「東北や熊本の地震でも災害協定ができてサポート活動ができた。万が一の場合に備えて安心を提供できれば」と話した。

服部千秋町長は「災害対策の強化に取り組んでおり、いざという際は協力をお願いしたい」と述べた。

(松本茂祥)

災害に備えて太子町が全日本冠婚葬祭互助協会と協定を結んだ調印式＝同町鯉



「災害時における被災者支援協定書」調印式